令和4年度 社会福祉法人淳邦会 事業計画

特別養護老人ホーム のぞみ荘 地域密着型特別養護老人ホーム のぞみ荘

ケアハウス オパール デイサービスセンター オパール オパール居宅介護支援事業所 福田高齢者支援サブセンター グループホーム ひなぎく 育成推進室

特別養護老人ホーム のぞみ荘

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

日々のコミュニケーションや健康観察、事故予防、感染症対策などを継続することで、安全に生活ができるよう支援する。入所者一人ひとりのニーズや課題を明確にし、チームで対応することで適切なサービス提供に努める。

看取り加算の開始とともに看取り介護についての理解を更に深め、「のぞみ荘で最期を迎えたい」という入所者や家族の意向に沿って、各職員・職種・病院が連携し穏やかな最期が迎えられるよう支援する。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

感染症対策を継続し、実習生等の受入や地域貢献を行う。

地域における緊急措置の必要な事例に対し関係機関と連携しながらセーフティネットの役割を果たす。

・優秀な福祉人材を育成する

職員の資質向上のため、WEB研修や外部講師の活用、委員会研修の実施等を計画的に継続する。

人材定着のための取り組みを検討する。

人が活きる職場環境を整備する

基本ルール策定による電子記録のより良い活用やリフト等の効果的な使用により、 腰痛対策を含む職場環境改善を実施する。

安定したサービスが提供できるよう募集活動を強化し柔軟に対応することで人材 の確保に努める。

効率的な運営のため、検討・実行・共有の仕組みづくりを行う。

安定した経営を継続する

職種の連携により入所者の健康を維持し、治療が必要となった場合も主治医や病院 と情報連携することで入院日数の縮減を図る。また、入所準備を早期から計画的に行 うことで入退所をスムーズに行い平均稼働率 95%を目指す。

ショートステイは平均稼働率 50%をめざす。利用者確保のため、関係機関へ定期的に情報発信するとともに、緊急事例への柔軟な対応で目標達成を目指す。

事業所全体でコスト意識を持ち、経費削減に努める。

・業務管理体制(法令等遵守)を徹底する

尊厳の視点に立って、虐待防止・身体拘束ゼロ・不適切ケアの防止などの権利擁護の 取り組みを継続する。

設備の点検や防災訓練を実施し安全対策や福祉避難所としての準備に努める。

地域密着型特別養護老人ホーム のぞみ荘

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

日々のコミュニケーションや健康観察、事故予防、感染症対策などを継続することで、安全に生活ができるよう支援する。入所者の個別ニーズや課題を明確にし、チームで対応する。個別ケアの強化に努める

看取り加算の開始とともに看取り介護についての理解を更に深め、「のぞみ荘で最期を迎えたい」という入所者や家族の意向に沿って、環境整備等も含めた対応を継続して協議し、各職員・職種・病院が連携し穏やかでその人らしい人生の最期が迎えられるよう支援する。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

感染症対策を継続し、運営や状況を報告する運営推進会議の再開や実習生等の受 入、地域貢献を行う。

・優秀な福祉人材を育成する

職員の資質向上のため、WEB研修や外部講師の活用、委員会研修の実施等を計画的に継続する。

人材定着のための取り組みを検討する。

・人が活きる職場環境を整備する

基本ルール策定による電子記録のより良い活用やリフト等の効果的な使用により、 腰痛対策を含む職場環境改善を実施する。

安定したサービスが提供できるよう募集活動を強化し柔軟に対応することで人材 の確保に努める。

効率的な運営のため、検討・実行・共有の仕組みづくりを行う。

・安定した経営を継続する

職種の連携により入所者の健康を維持し、治療が必要となった場合も主治医や病院 と情報連携することで入院日数の縮減を図る。また、入所準備を早期から計画的に行 うことで入退所をスムーズに行い平均稼働率 95%を目指す。

事業所全体でコスト意識を持ち、経費削減に努める。

業務管理体制(法令等遵守)を徹底する

尊厳の視点に立って、虐待防止・身体拘束ゼロ・不適切ケアの防止などの権利擁護の 取り組みを継続する。 設備の点検や防災訓練を実施し安全対策や福祉避難所としての準備に努める。

在宅支援部 ケアハウス オパール

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

利用者の意思を大切にしながら体操や趣味活動、情報共有など新しいかたちの活動を開始し、健康で安定した社会性のある生活が継続できるよう支援する。

利用者を主体とした感染症対策等の勉強会や行事の計画をすることで、健康だけでなく、生活の質の向上に関しても利用者自身が発信できる環境をつくり、閉じこもりの防止につなげる。

・安定した経営を継続する

こまめな声掛けや相談対応から利用者の体調や生活を把握し、関係機関や家族と情報を共有することで健康を維持し入院日数の縮減に努める。

稼動率 95%をめざし、関係機関へ定期的に情報提供し、入退居準備を円滑に進める ことで空室期間の短縮に努める。

在宅支援部

デイサービスセンター オパール

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

在宅生活を継続するという視点で介護計画を作成し、利用者のニーズや満足度の向上につながるサービスを提供する。午後を中心とするグループ別活動プログラムの実施を継続し、利用者が主体的に選択や判断ができ、達成感を感じられる内容に改善する。

電子記録の導入により業務の見直しを行い、サービス提供の充実を目指す。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

感染症対策を継続し実習生等を受け入れる。また、この交流が職員の学びにつながるような取組になるよう工夫する。

地域交流につながる活動プログラムを実施し、活動範囲を広げ利用者の社会参加を 促す。

・優秀な福祉人材を育成する

事業所内で年間の研修計画を作成し、定期的に法人内外の研修に参加する。研修を 企画することで研修機会を増やし資質向上につなげる。職員の力が発揮できる職場づ くりをめざし効果的なミーティングを実施する。

・安定した経営を継続する

地域のケアマネジャーや関連事業所へ訪問や FAX 等の定期的な情報提供を継続し、 関係を強化することで利用者増につなげる。会議等で収集した情報を効果的に活用す る。

関係機関との連携強化と活動プログラムの充実によるサービスの質の向上で稼働率 60%を目指す。

業務管理体制(法令等遵守)を徹底する

ひやりはっと活動を更に強化し、職員が声を掛け合い迅速に連携することで「事故 ゼロ」を継続する。「不適切ケア」についての学びを継続し、法令遵守の徹底を図る。

在宅支援部オパール居宅介護支援事業所

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

月1回、事業所内で各担当のケアプランをチェックする仕組みを作る。そしてケアプランチェックを事業所内でおこなう事で利用者の意向を十分に反映し内容に偏りがないケアプラン作成を目指す。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

地域福祉の拠点となるべく、感染症で外に出られなくても広報紙を発行するなど地域に出る以外の方法で情報発信ができる方法がないか模索する。

・人が活きる職場環境を整備する

職員と事業所の資質向上のため年 10 回以上の研修・勉強会参加は継続し、事業所内でも情報交換を行う。

毎月、水島地区の居宅事業所が集まるケアマネ交流会や隔月で武田病院居宅とおこなう合同会議を踏まえてオパール居宅内での研修を計画的に年2回程度行う。

・安定した経営を継続する

訪問やFAXを含めた効果的な営業方法を検討する。また、継続できる範囲で水島地区以外の営業地区を探す。同時に他事業所からの紹介や相談の受け入れを柔軟に行う。

在宅支援部 福田高齢者支援サブセンター

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

在宅で生活されている高齢者の支援を考えるに当たり、最近は 8050 問題や家族の問題などにより高齢者の生活に支障が出ていることも増えている。他機関との連携も必要となる場合もあり、研修等への参加により高齢者の制度だけではなく他の制度なども知ることにより、高齢者の思いを尊重し、生活への支援を行えるように努める。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

新型コロナ感染症の影響により、2年程地域の中での活動が自粛や縮小するという 状況が続いている。今年度も影響は残ると思われるが、地域のサロンや百歳体操への 活動支援やフレイル予防などの健康維持に対するチラシを活用しながら地域活動を 行えるよう努める。また、状況を見ながらではあるが、顔を合わせて交流ができる機 会を作れるよう努める。

在宅支援部 グループホーム ひなぎく

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

健康に過ごせるために、個々の能力に応じた役割と楽しみを見付け、その人らしいケアプランの充実と提供を目指す。感染症対策を行いながら、主治医からの指示や管理栄養士の助言・指導を受け、季節感や楽しみにつながる食事作りを利用者と共に行う。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

地域の方や包括支援センター・他事業所に参加していただく運営推進会議では、 意見交換と情報共有することでつながりを強化する。実習生・認知症マイスターの受 け入れ等を実施する。

・優秀な福祉人材を育成する

内外の研修へ可能な限り参加し、情報の収集と更なる資質向上を目指す。 日々の介護からの気付きをはじめ、拘束だけでなく不適切ケアの勉強会を、2か月に 1度行い、介護の質を向上する。

・安定した経営を継続する

入院時は医療機関に情報提供し、当事業所で生活可能な目標を共有する。 本人・ご家族の意向を状態に応じて確認しておく。空室管理を活用し、待機者への連絡や居宅介護支援事業所・包括支援センターに空き情報を提供し、新入居の受け入れを円滑に行う。稼働率95%を目指す。

業務管理体制(法令等遵守)を徹底する

職員は自らも専門職として職業倫理を身に付けておくよう。事故対応・高齢者虐待の防止・非常災害対策・個人情報の適切な取扱い等のマニュアルの改善と共有を行い、統一できた介護・業務を心がける。

事務局 育成推進課

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

常に利用者の視点から高齢者福祉施設職員として求められる「やり方」と「あり方」を念頭に置いたサービスを提供できるよう働きかけを行う。法人、現場の現状を把握し、課題解決、質の向上につながる取り組みを行う。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

社会福祉法人の責務として位置付けられた「地域における公益的な取組」を実施する。社会福祉協議会等、各種機関・団体と連携して地域のニーズを把握し、貢献することでより地域に求められる法人、地域共生社会の実現を目指す。コロナ禍においても地域の皆様と顔の見える関係を築き、ニーズに沿った活動を実施する。「機会、場所、人」のつながりを深め、地域に貢献できる機会を増やす。

・優秀な福祉人材を育成する

法人の求める人材を獲得し、成長できる職場環境を整える。法人全体で共通した育成システムの確立を図ると共に事業所毎の育成体制において、根拠に基づいた、きめ細やかな育成を行う。外国人介護士の受け入れを計画的に実施し、スムーズに業務が行えるようサポートを行う。

・安定した経営を継続する

利用者、求職者から「選ばれる法人」となるよう同業他社との差別化を図ると共に、SNS、ホームページ等を活用し、積極的に情報を発信する。法人内での連携を強化し、様々なニーズを持つ利用者、家族に対応できるよう介護力を高め、満足度向上から利用機会が増す職場づくりを行う。

・業務管理体制(法令等遵守)を徹底する

職員個々が役割を担う上で把握しておくべき法令、ルールを根拠から理解し、実践できるよう研修体制を整備する。多方面から情報を収集し、柔軟に対応できる組織作りを目指す。

・人が活きる職場環境を整備する

法人と現場が同じ方向を向き、かつ、前向きに働ける環境を作る。また活躍の場を創出すると共に、取り組みに対して適正な評価を行う仕組みを整えることでモチベーションの向上を図る。

令和4年度 法人行事・消防・防災計画

	主な行事	火災避難訓練
4月	新人研修	
5月	法人委員会研修(食中毒)	デイサービス
6月		ケアハウス
7月	労働衛生研修	介護1課
8月	夏行事	グループホーム
9月	敬老の日行事 法人委員会研修(感染症)	介護2課
10 月	階層職種別研修	地域密着型
11月	地震対応防災訓練	デイサービス
12月	階層職種別研修	ケアハウス(夜間)
1月	労働衛生研修	介護1課(夜間)
2月	階層職種別研修	介護 2 課 (夜間) デイサービス
3月	合同消防訓練	地域密着型(夜間) グループホーム(夜間)